

会社情報	トップ メッセージ	HINO 基本理念	サステナブルな 社会の実現に 向けて	日野の 環境経営	SDGsと 日野の戦略・ 取り組み	CSR マネジメント	トピック	ESGの取り組み 環境 社会 企業統治 ESGデータ集・その他
------	--------------	--------------	--------------------------	-------------	-------------------------	---------------	------	---

コーポレート・ガバナンス 社外取締役メッセージ コンプライアンス・リスクマネジメント

社外取締役メッセージ

進化するコーポレート・ガバナンスを基盤に、
「サステナビリティ経営」を目指す

社外取締役 吉田 元一

よしだ・もとかず=1948年生まれ。1971年一橋大学商学部卒業後、三井物産株式会社に入社。2001年同社取締役に就任、2007年から代表取締役専務執行役員、2008年代表取締役副社長執行役員。2012年に学校法人明星学苑理事長に就任。2015年より日野自動車株式会社独立社外取締役。

よき企業市民として持続的な成長が求められる

企業経営は、本質的に二つの面を持っていると思います。一つはよき企業市民であること。もう一つは持続的な成長です。良い企業はこの両方のバランスが取れた経営ができ、その実現に第三者の客観的な視点で経営執行を監督・助言し協働するのが社外取締役の役割であると考えます。企業経営に対する社会要請はSDGs、ESGと複合化・多岐化し、顧客・従業員・株主・地域社会等のステークホルダーに対する責任ある対応と、環境・安全・人権などに最大の配慮が求められます。これらの社会的責任を果たすためにも収益力を高め、持続的成長に向けた十分な体力を持つ安定した財務体質を造らなければなりません。日野自動車は「稼ぐ力」を高める経営改革を続け、環境、社会にも配慮した「サステナビリティ経営」を目指さなければなりません。その為には、経営の内部執行者に対し、外部の第三者視点が必要となり、それが私たち社外取締役の役割であり、そのバランスの上にコーポレート・ガバナンスがあると認識しています。

「Challenge2025」を実現し、未来から選ばれる会社になる

自動運転、電動化、CASE、MaaSの新しいモビリティ社会やDX時代への対応、With/After コロナでの市場変化等、当社をとりまく環境は、急速に変化しています。

新時代を見据え、当社は経営戦略『Challenge2025』を策定し、現場ニーズへの素早い意思決定とアクションを起こせる組織改革、先進技術やDX化に対応する組織の新設等の様々な改革に意欲的に取り組んでいます。『Challenge2025』実現に向け、取締役会で真剣な議論と意思決定がなされ、経営執行が的確な行動をとる為には、しっかりとしたコーポレート・ガバナンスが基本となります。当社はコーポレート・ガバナンス委員会の下、中長期戦略の策定、リスク・マネジメント、コンプライアンス体制の構築等、企業統治の仕組みを進化させています。しかし世界各国でビジネス展開する企業として、コーポレート・ガバナンスを一層浸透させるには、世界中の「チーム日野」一人ひとりが企業理念、ビジョンの体現者として意識を持ち活動することが必要です。

社会インフラとして物流・人流ビジネスが拡大する中、ステークホルダーの期待に応え、持続的に成長し、未来から選ばれる会社にならなければなりません。その為に経営陣に時にはブレーキを踏み、時には背中を押し、真摯にもの申せる社外取締役として力を尽くしていきたいと思っております。

会社情報	トップ メッセージ	HINO 基本理念	サステナブルな 社会の実現に 向けて	日野の 環境経営	SDGsと 日野の戦略・ 取り組み	CSR マネジメント	トピック	ESGの取り組み 環境 社会 企業統治 ESGデータ集・その他
------	--------------	--------------	--------------------------	-------------	-------------------------	---------------	------	---

コーポレート・ガバナンス 社外取締役メッセージ コンプライアンス・リスクマネジメント

社外取締役メッセージ

攻めと守りのコーポレートガバナンスで 世界の物流・人流をリードする企業へ

社外取締役 **武藤 光一**

むとう・こういち=1953年生まれ。1976年名古屋大学経済学部卒業後、大阪商船三井船舶株式会社入社。2007年株式会社商船三井取締役常務執行役員に就任し、2010年に同社代表取締役社長、2015年同社代表取締役会長、2019年同社特別顧問。2020年より日野自動車株式会社独立社外取締役。



▶商用車は課題先進分野、社会の要請に先手で応える

商用車は、自動車産業における課題先進分野であると考えます。したがって、当社には、物流・人流システム全体を俯瞰したうえで、全体最適に向けたソフトとハードの解をパートナー企業と共に提供し、社会課題の解決をし続けることが期待されます。そのためには、様々なプロジェクトを遂行する今までにないコーディネート力も必要となってきます。

日野自動車は、トヨタグループの商用車分野を担う技術力に裏打ちされた堅実で安定感のある会社であると感じています。今後は、世界の物流・人流を支える大変重要な役割を担っているという自負のもと、カーボンニュートラルの実現や安全性向上など高まる社会的要請に、先手を打った形で応えていくことが求められるでしょう。

▶取締役会での大きな視点をもった方向性の議論がより求められる

日野自動車のコーポレート・ガバナンス制度は、合格ラインを超えていると思います。トヨタ自動車の子会社のため上場子会社における独立性の課題はありますが、3名の社外取締役導入により外部の客観的な監視が入り、少数株主の利益保護も十分になされています。会社および少数株主は、トヨタ自動車の子会社であることのメリットを十分受けていると評価できます。

また、コーポレート・ガバナンスは制度導入だけでは不十分で、現場と取締役会が有機的に繋がってその精神を組織全体に浸透させることが肝要なため、現場をよく知る社内取締役の役割も大きいと考えています。

取締役会は、その実効性評価により、社外取締役の意見も取り入れ弛まず改善されていると評価できます。今後は、カーボンニュートラル実現に向けた環境規制など急速に変化する社会的要請にどのように応えていくべきか、また、その方向性について、取締役会が大きな視点を持った議論をすることが一段と求められるようになると思います。

▶攻めと守りのコーポレート・ガバナンスの充実に貢献したい

一般的に、社外取締役には会社の方向性や運営にかかわる助言をするマネジメント面の機能と、経営の監督や監視を行うモニタリング面の機能が求められます。私は、世界全体の動向を見定め、得てして現実対応となりがちな現場の意見に一石を投じつつ、会社の向かうべき方向性の議論に参画し、リスク評価を行い、取るべき事業リスクがある時には積極的に応援したいと考えています。

また、取締役会および関係する委員会での内部執行者との話し合いや議論を通じ、社会規範に照らして逸脱行為がないか、適切な対応がなされているか、内部統制は正常に機能しているかについて、第三者の立場で客観的視点から監督や助言を行い、攻めと守りのコーポレート・ガバナンスの充実に貢献していきたいと考えています。